

愛秋豊 (あいしゅうほう)

登録番号：第3812号

登録年月日：平成6年3月2日

登録者：豊田 靖 (愛知県豊橋市石巻本
町字信池78番地)

育成者：猪飼孝志 鈴木範治

来歴：「前川次郎」の枝変わり

特性

完全甘柿で極大果である。

■栽培特性

樹姿はやや直立性で、樹の大きさは中位、樹勢はやや強い。発育枝の長さおよび枝梢の太さは中で、葉の大きさは大である。雌花はやや大きく雄花は着生しない。発育期および雌花の開花期は「前川次郎」と同時期である。果実が大きく樹勢もやや強いので、「前川次郎」と比べて枝が下垂しやすい。

■果実特性

果実は350g前後で「前川次郎」より約100g重く大果で500g以上の果実もみられる。果実の形および縦断面の形は扁平形で、果頂部はわずかに凹み、横断面の形は方形である。ヘタスキの発生は多いが、程度は極軽微である。果皮色は橙朱色で、果実の座および条紋は無である。果肉は黄橙色、肉質は密で甘味はやや少(糖度14程度)である。種子数は0～1、形は方形でやや厚く、大きさは中である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病虫害に対して、他のカキ品種と比べ特に弱いものはなく、通常の防除でよい。栽培方法は「前川次郎」と同様に行ってよいが、「愛秋豊」の特徴を生かした大玉果を生産するためには葉果比が35程度になるよう着果量を制限する。摘らい時には、新梢基部以外の下向きおよび横向きの大きなつぼみを残し、果実が大きくなるので、摘果の際には周りの枝などに接触しないように注意する。枝が下垂しやすいので、枝つりをしたり、支柱で支える等の対策が必要である。また、剪定時には細長い結果母枝は除去し、太く充実したものを残すよう心がける。

■地域適応性

「前川次郎」の栽培適地に適すると思われる。平成8年度の愛知県での栽培面積は約5 haである。

(鈴木寛之)